

要スル場合ニ於テ戸主ノ承諾アリタルトキハ何時ニテモ檢證、搜索ヲ爲スコトヲ得

第七十五條 旅店、割烹店其他夜間ニ雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テハ其公開時間ニ限リ何時ニテモ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 住居内ニ於テ現ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯ス者アリテ急速ノ處分ヲ要スルトキハ何時ニテモ其現場ニ限リ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用ヒ濫ニ門戶、牆壁、器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

又其處分ヲ終リタルトキハ書類、物件ノ紛失、毀損ヲ防シ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコシ

第七十八條 檢證、搜索、物件差押中雜音、喧噪、其他妨害ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止ス可シ又何人ニ限ラヌ允許ヲ得シテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ留置スルコトヲ得

第七十九條 檢證、搜索、物件差押ハ其處分ヲ終ルマテ停止セサルヲ要ス若シ已ムコトヲ得サル事故アリテ之ヲ停止スルトキハ證憑湮滅ヲ豫防スル爲メ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

第八十條 住居搜索ヲ爲スニハ其目的トスル所ノ書類、物件ヲ藏匿スルコトヲ得ヘシト思料スル場所ニ限ル可シ

第八十一條 檢證、搜索、物件差押ヲ爲シタルトキハ其調書ヲ作ル可シ

差押ヘタル物件ハ其品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其抜書又ハ謄本ヲ渡スコシ

第八十二條 差押ヘタル物件ハ散佚、毀損ヲ防シ爲メ認印若クハ封印ヲ爲シ且其差押ヘタル爲シタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添付スコシ

又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ附スル等便宜ノ處置ヲ爲スコシ

第八十三條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ關係人ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコトヲ得但書類、電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ開披ス可カラス

書類、電報物件ヲ受取タルトキハ其證書ヲ渡スコシ

第八十四條 差押ヘタル物件ト雖モ檢事局ニ送致スルニ及ハサルモノト認ムルトキハ所有者又ハ保管者ニ保全ヲ命シ其受書ヲ差出サシム可シ

第二章 證人訊問

第八十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ證人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スコトヲ得

證人檢證、搜索ノ場所ニ在ルトキハ直チニ訊問ヲ爲ストヲ得

第八十六條 證人ニハ先ツ其氏名、年齢、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ但宣誓ヲ爲サシム可カラス

第八十七條 證人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解シ易キ言語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ言語等ヲ用フ可
カラス

第八十八條 證人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁、討論ヲ爲ス可カラス若シ
其陳述他岐ニ涉ルトキハ之ヲ止メ齟齬アルトキハ之ヲ質ス可シ

第八十九條 證人ハ愛憎、畏懼ノ心ヲ生シ或ハ他ノ陳述ニ雷同スルノ恐アルヲ以テ成ル可
ク被告人又ハ他ノ證人ト各別ニ訊問ス可シ但對質ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第九十條 證人ヲシテ證據物件ニ付キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ成ル可ク其物件ヲ
示ス可シ

第九十一條 證人ヲシテ犯所若クハ其他ノ場所ニ就キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ其
場所ニ同行スルコトヲ得

第九十二條 證人雖ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヒシム可シ
聾者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ス可シ國語ニ通セサル者ニ付テモ亦同シ

第九十三條 證人ノ陳述ニ付テハ訊問ノ順序ヲ逐ヒ即時ニ其調書ヲ作ル可シ
證人其陳述ヲ變更、増減センコトヲ申立テタルトキハ更ニ其陳述ヲ聞キ調書ヲ作ル可シ

第三章 鑑定

第九十四條 假豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要トスルト
キハ醫師、穩婆、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ職能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシ

ムルコトヲ得

第九十五條 第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第九十六條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干渉ス可カラスト雖モ成ル可ク現
場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第九十七條 鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ記載セシメ其結果分明
ナラサルトキハ其推測スル所ヲ記載ス可シ

數名ノ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於テ各意見ヲ異ニスルトキハ各自ニ鑑定書ヲ作ラシメ又
ハ一個ノ鑑定書ニ其意見ヲ記載セシム可シ

鑑定書ニハ鑑定ヒシ年月日ヲ記載シ署名捺印シ每葉ニ契印セシム可シ
第九十八條 鑑定書ニ不明、不備ノ點アルトキハ更ニ其説明書ヲ作ラシメ鑑定書ニ添附ク
可シ

第四章 被告人逮捕

第九十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯、准現行犯ニシテ被告人現場ニ在ルトキハ直
チニ之ヲ逮捕ス可シ但被告人ノ身分又ハ事件ノ模様ニ因リ其逮捕ヲ必要トセサルトキハ
此限ニアラス

第一百條 現行犯、准現行犯ニ付キ被告人ヲ追跡スル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何
ニ拘ハラス直チニ之ヲ逮捕スルコトヲ得但日出前、日没後ハ戸主又ハ之ニ代ハル可キ者

ノ承諾アルニ非サレハ他人ノ家宅内ニ進入ス可カラズ

第百一條 被告人ヲ逮捕スルニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用フ可シ

被告人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ用フルモ決シテ自衛ノ區域ヲ踰ル可カラズ

第百二條 假豫審ノ場合ニ於テハ現場ニ在ラサル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得
被告人他ノ管轄地内ニ在ルトキハ其地ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ送致シ其執行ヲ囑託ス可シ

若シ其事件急速ヲ要スルトキハ巡查、憲兵上等兵ヲシテ勾引狀ヲ帶行セシメ又ハ電報ヲ以テ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ其名ヲ以テ勾引狀ヲ發ス可シ

第百三條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ護送途中及ヒ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ留置場ニ入レ置クコトヲ得

第百四條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合ヲ除ク外前條ノ期限内ニ檢事局ニ送致スルノ手續ヲ爲ス可シ

勾引狀ヲシテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦同シ

第百五條 常人ニ於テ現行犯、准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスルトキハ成ル可ク其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ル可シ

第百六條 現行犯、准現行犯ニ付キ巡查、憲兵上等兵又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ逮捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ニ付キ調書ヲ作ル可シ

逮捕ヲ爲シタル者ヨリ手續書ヲ差出シタルトキハ其相違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ之ヲ調書ニ添置シ可シ

第百七條 勾引狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名、職業、住所及ヒ年月日時ヲ記載ス可シ其氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ

第百八條 勾引狀ハ巡查、憲兵上等兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

第五章 被告人訊問

第百九條 假豫審ニ於テハ取證ノ機ヲ失セス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢證、搜索、物件差押及ヒ證人訊問ニ付キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第百十條 被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問ス可シ

- 一 氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地
- 二 有位又ハ帶勳者ナルヤ否
- 三 前科ノ有無若シ前科アルトキハ其罪名、刑名、裁判言渡ヲ爲シタル應名及其年月日

第百十一條 被告人ヲ訊問スルニハ穩和ヲ旨トシ且其年齢、身分、性質等ヲ斟酌シ一様ノ訊問ヲ爲ス可カラズ

第百十二條 訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラズ又簡明ヲ旨

トシ勉メテ疑似ニ涉ルコトヲ避ク可シ

第百十三條 被告人ニハ自由ニ發言セシム可シト雖モ餘事ニ涉ラシメサルコトニ注意ス可シ

第百十四條 訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ル可ク同時ニ數事項ヲ訊問ス可カラス
數罪俱發ノ場合ニ於テハ成ル可ク一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フ可シ

第百十五條 數人共犯ノ場合ニ於テハ成ル可ク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防ク可シ且轍ク事實ヲ得可シト思料スル者ヨリ訊問ヲ爲ス可シ

第百十六條 證憑物件ハ時機ヲ計リ之ヲ被告人ニ示シ其辯解ヲ爲サシム可シ

第百十七條 事實發見ノ爲メ必要ナル場合ニアラサレハ被告人ヲシテ他ノ被告人又ハ證人ト對質セシム可カラス

第百十八條 第九十二條ハ被告人訊問ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

第百十九條 被告人ノ舉動ハ事實發見ノ端緒トナルコトアルニ因リ其言語、氣色等ニ注意ス可シ

第百二十條 被告人ノ白狀アリト雖モ一概ニ眞實ト做ス可カラス其白狀ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調アルコトニ注意ス可シ

第百二十一條 訊問ニ付テハ即時ニ其調書ヲ作り問答ノ始末及ヒ被告人ノ舉動等遺漏ナリ記載ス可シ

第九十三條ノ手續ハ被告人訊問調書ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

○福島縣訓令己第九十號

(明治二十六年十一月十四日)

司法警察官執務心得細則

第一條 執務心得第四十七條第二項ニ依リ被告人ヲ管轄裁判所ニ同行セシムルトキハ巡查ヲシテ第一號書式ノ報告書ヲ帶行セシムヘシ

第二條 執務心得第四十八條被告人又ハ其他ノ者ノ陳述聽取書ハ第二號書式ノ文例ニ依ルヘシ

第三條 人命賭博其他ノ犯罪事件ニ付必要ト思料スルトキハ現場ノ略圖ヲ添付スヘシ
共犯人逃走ノ場合ニ於テハ其族籍、氏名、年齢、住所、職業、容貌、体格、特徴等詳細ニ記載スヘシ

第四條 毆打創傷其他身體ニ係ル事件ニ關シ鑑定書ヲ徵スルキハ可成其被害ノ狀況ヲ詳悉スルハ勿論疾病休業ニ至ルヤ否ヤ若シ休業ヲ要スルキハ其日數ヲ明記セシムルヲ要ス
加害者二名以上ニ係ルトキハ創傷ニ疾病休業ノ時日ヲ各別ニ記載セシムルヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ第三號ノ人体圖ニ創傷ノ箇所ヲ明記シ調書ニ添付スヘシ

第五條 司法警察官被告人取調ノ末其告訴、告發書(盜難訴又ハ監視書類ノ如シ)ノ既ニ他ノ警察官署ニ差出シアルコトヲ認知シタルトキハ其書類ヲ速カニ管轄裁判所檢事ニ回送

アリタキ旨照會スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其旨送致書備考欄内ニ記入スヘシ

第六條 屋外ノ竊盜被告事件ニ付テハ被害者ヨリ提出スル盜難品ノ代價正當ナルヤ否ヤヲ精査シ若シ不當ナリト認ムルトキハ可成之ヲ訂正セシムルヲ要ス被害者之ヲ諾セサルトキハ意見ヲ付記スヘシ

調書ニハ屋外ノ如何ナル場所ナルヤヲ詳記シ尙ホ不充分ト思料スルトキハ略圖ヲ添付ス可シ

第七條 裁判所構成法第十六條第三號ニ依リ區裁判所管轄ニ屬スヘキ輕罪事件ト思料スルトキハ檢事正又ハ支部檢事ニ宛タル送致書ヲ付シ其所轄區裁判所檢事ニ送付スヘシ

第八條 司法警察官被告事件ヲ送致スル場合ニ於テハ其原籍調ヲ添付スヘシ若シ時日ヲ要スルトキハ一面被告人在籍ノ市町村役場へ其原籍調ヲ管轄區裁判所檢事ニ回送アリタキ旨ヲ照會スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其旨送致書備考欄内ニ記入スヘシ

但被告人ノ原籍、年齢、前科ノ有無等明瞭ナルトキハ此限ニアラス

第九條 被告事件檢事ニ送致スル場合ニハ第四號書式ノ送致書ヲ以テ一件書類其他ノ物件ヲ送付スヘシ

警察官署ニ於テハ送致書ノ寫及意見書ノ原案ヲ保存スヘシ

但シ必要ト認ムルトキハ特ニ書類ノ寫ヲ保存スルヲ得

司法警察官ノ意見書ハ一件書類ト分離シテ送付スヘシ

第十條 證據物トシテ押收シ又ハ被害者ヨリ差出シタル書類物件等(書面葉書又ハ瓦石棍棒ノ類)所有者ニ於テ還付ヲ必要トセザルトキハ其旨付記セシムルヲ要ス

第十一條 探偵書復命書上申書等巡査ヨリ差出ス書面ハ可成被告ノ既往現在ノ性行、舉動及ヒ良民ノ風評、感情等事實ニ發顯シタル事項ヲ掲ケ推測ノ語辭ヲ避クルヲ要ス

第十二條 罰金科料ノ不納者換刑執行嘱托アリタル後ニ於テ現金上納ヲ申立ルモノアルトキハ一時其執行ヲ停止シ裁判所へ何日迄ニ罰金又ハ科料ヲ上納スヘキ旨ノ請書ヲ徵シ管轄裁判所檢事ニ送付スヘシ

第十三條 刑事上其關係人ヨリ提出スル始末書等ハ當該官吏ニ於テ之レカ代書ヲ爲サ、ルヲ要ス

第十四條 刑事上ニ要スル用紙ハ總テ半紙形ヲ使用スヘシ
人民ヨリ提出スル書類ハ揭示其他ノ方法ヲ以テ可成其提出前ニ半紙形使用セシムル様注意スヘシ

第十五條 盜難訴及ヒ其他ノ犯罪事件ハ第五號犯罪表ニ其要領ヲ記入スヘシ
前項ノ犯罪表ハ翌月十日迄ニ前月分ヲ調製シ管轄裁判所檢事ニ送付スヘシ
(第一號書式)

報告書

何府縣何郡市何町村

何 某

右何々事件ニ付何某ノ承諾ヲ得巡查何某ヲシテ同行爲致候條此段及報告候也

何警察(分)署

警部 何 某

年 月 日

(第二號書式)

聽取書

何府縣何郡市何町村何番地(華士族平民)何某(年齢)ハ(何某)何事件ニ付本職ノ通知ニ

依リ出頭シ(又ハ何處ニ於テ)左ノ通り陳述ヲ爲シタリ

一云々(被咎人等ノ陳述ノミヲ記ス又事實繁雜者クハ
録録スルモノハ其陳述ヲ數項ニ分記スルヲ可トス)

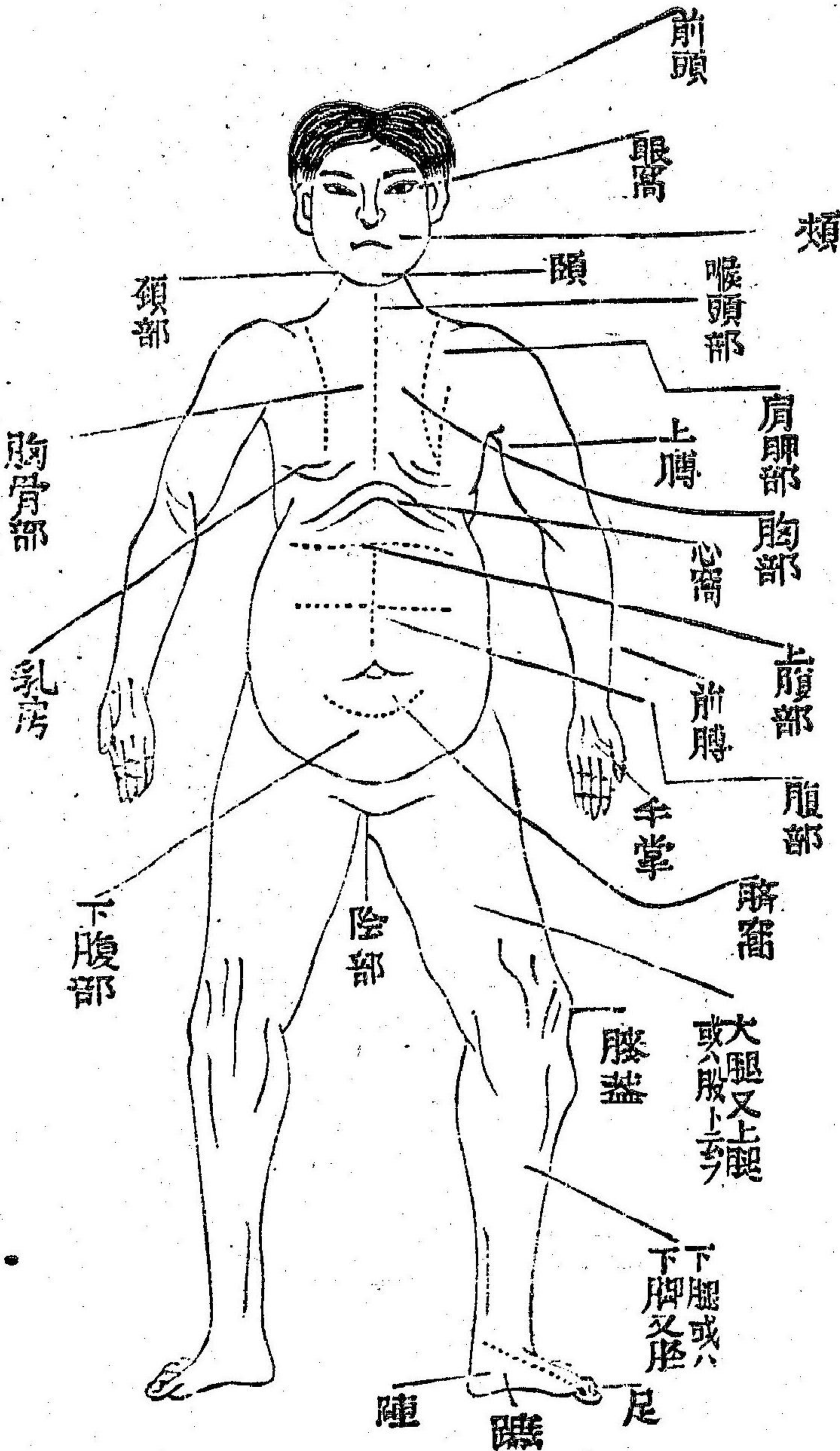
右陳述ヲ錄取シ讀聞カセタル上相違ナキヤ否ヤヲ相質シタルニ無相違旨供述セリ

何警察(分)署(又ハ何處)ニ於テ

警部 何 某 (印)

官署
年 月 日
之印

(第三號書式)

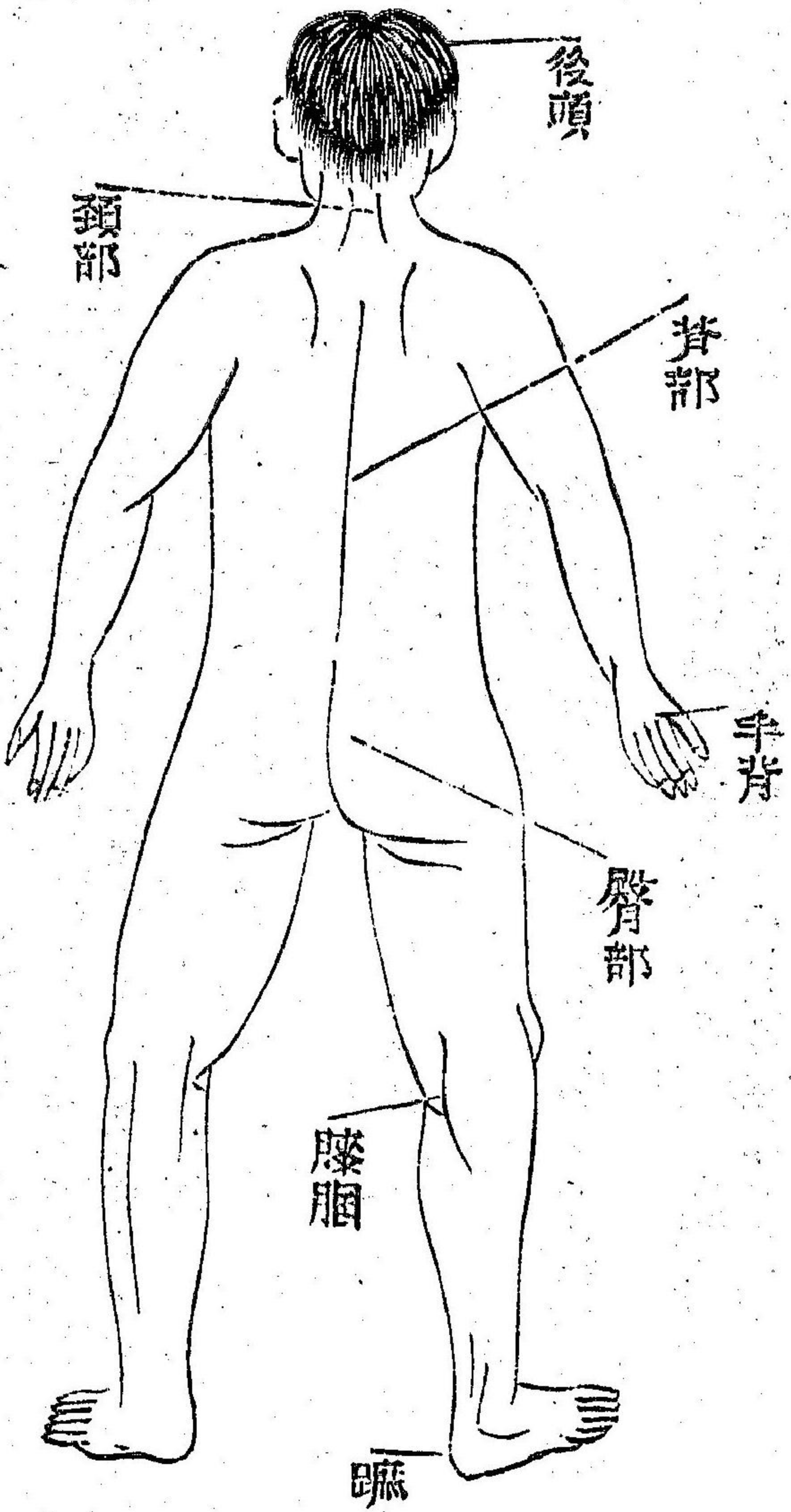


司法警察官執務心得細則

考 備	送致書第 號		檢事受 明治 年 月 日	發 出 明治 年 月 日 午 後前 時 分
	原 由	罪 名		
	被 告 人 住 所 氏 名 年 齡			

(第四號書式)

(用紙半紙)



右及送致候也

明治 年 月 日

裁判所

検事

殿

福島縣 警察 署

福島縣警部

右及送致候也
明治 年 月 日
裁判所
検事
殿
福島縣 警察 署
福島縣警部

- 記載例
- 欄内第一項ハ引致又ハ自首ノ區別ニ依リ隨時記入スルモノトス
 - 欄内四ヶ處ノ空欄ニハ書類、贓物、證據物、其犯ヲ適宜記入スルモノトス
 - 前項記入ハ其記載事項ノ多寡ニ依リ孰レノ欄ニ記入スルモ妨ケナシ
- (第五號書式) (用紙美濃紙)

明治 年 月 中 犯罪 表

何警察(分)署

番 號	犯 罪 名 及 犯 罪 ノ 要 領	犯 罪 ノ 場 所	被 害 者 氏 名 符 號	番 號	逮 捕 シ 就 捕 又 ハ 自 首 ノ 日 月	被 告 人 公 訴 時 刑 名 無 効 又 ハ 罪 免 訴 又 ハ 處 斷 日 月	被 告 人 氏 名
一 號	竊盜犯	信夫郡 福島町 何番	信夫郡 福島町 何番	一號	十月十日	無罪	佐藤權八
二 號	強盜犯	北會津郡 若松町 何番	北會津郡 若松町 何番	二號	十月廿二日	無罪	外一名

番 號	犯 罪 名 及 犯 罪 ノ 要 領	犯 罪 ノ 場 所	被 害 者 氏 名 符 號	番 號	逮 捕 シ 就 捕 又 ハ 自 首 ノ 日 月	被 告 人 公 訴 時 刑 名 無 効 又 ハ 罪 免 訴 又 ハ 處 斷 日 月	被 告 人 氏 名
三 號	人殺犯	信夫郡 福島町 信	信夫郡 福島町 字北	三號	十月廿六日	三十日刑	佐藤權八
四 號	規則違犯	安積郡 桑野村 何々	安積郡 桑野村 何々	四號	十月十五日	二十日刑	本村文治
五 號	強盜犯	北會津郡 若松町 何番	北會津郡 若松町 何番	五號	十月十日	三十日刑	雲山仙助

記載例

- 本表ニハ刑法上ノ犯罪ハ勿論諸條例規則違犯事件ノ輕罪以上ニ該當スルモノハ總テ記載スルモノトス
- 同一ノ被被告人數箇處ニ於テ罪ヲ犯シタル事件ニ係ルトキハ一箇處毎ニ記載スルモノトス

司法警察官職務執行規則

三

前項ノ場合ニ於テハ其犯人初筆「番號及ヒ符合」ノ欄ニ其以下ノ番號ヲ記入シ尙ホ其以下ハ被告人氏名ヲ朱書シ數箇處ニ於テ犯罪アリシコトヲ明瞭ニスヘシ
但數罪俱發ノ場合ニ限ル

二百十二

四

被害者一名ニ對スル犯人二名以上逮捕シタルトキハ主犯何某外何名ト記載スヘシ其共犯中捕ニ就カサルモノアルトキハ未捕何名ト記載スヘシ
他官署嘱托ニ依リ逮捕シタルトキハ「逮捕シタル警察官署」ノ欄ヘ其理由ヲ朱書シ他

五

官嘱托ニ係ルコトヲ明瞭ニスヘシ
番號ハ毎月之ヲ起スモノトス

六

「被告人又ハ書類送致ノ月日」ノ欄ハ被告人ニ係ルトキハ單ニ「何月何日」ト記入シ書類ノミ(被告人未捕又ハ罰金ニ係ル犯罪ノ如キ)ニ係ルトキハ「書類何月何日」ト記入スヘシ

七

犯罪ノ種類其他ノ理由ニ依リ全ク記入ヲ要セサル欄アルトキハ斜線ヲ引キ置クヘシ
被告人判明セス又ハ其他ノ事故ニ依リ捜査書類現存スル場合ハ之ヲ表末ニ順次編冊シ置クヘシ

八

本表各欄ニ記入スルト同時ニ其犯罪ニ係ル一件書類ニ同一ノ番號及ヒ受理月日ヲ記入スヘシ

十

明治二十六年十二月五日印刷
明治二十六年十二月六日發行

福島縣警察部

印刷者

竹内活版舎

竹

内

宗兵衛

福島縣岩代國信夫郡福島町大字
福島字通五ノ二十九番地

